

【教材・教具名】 平仮名を読もう	【教科・領域】 国語	【対象】 小学部1年（S.Hさん）
---------------------	---------------	----------------------

【ねらい】

- ・平仮名の読みを覚えることができる。
- ・楽しみながら学習に取り組むことができる。

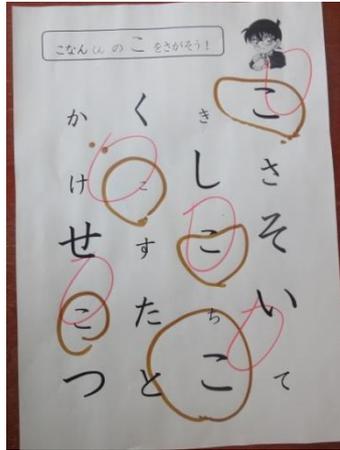
○教材の使い方（*）と工夫点（★）

ステップ1 <平仮名の弁別>

* 指示された文字と
同じ文字を見つけ
○をつける。

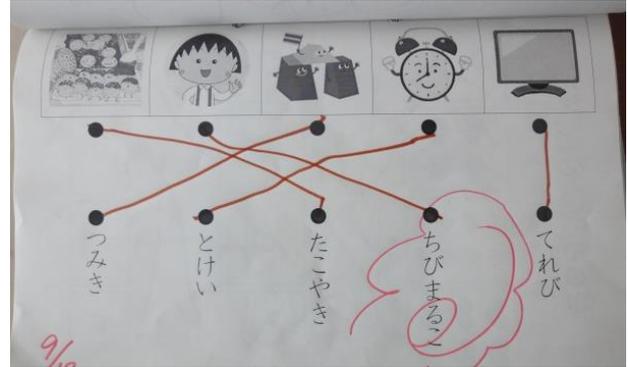
（例：こなんくんの
「こ」を探そう）

★本児が好きなキャラクターを取り入れることで、興味をもって取り組めるようにした。



★同じ文字が五つあることを予め伝え、見通しをもって取り組めるようにした。

ステップ2 <イラストの単語のマッチング>



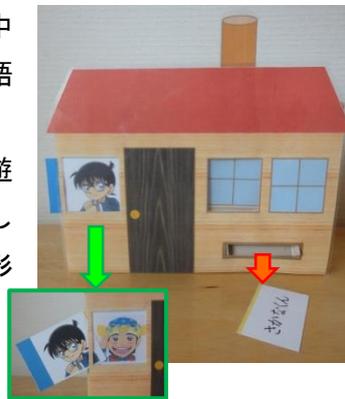
* イラストを見て、その名称を選択肢から探し、線で結ぶ。

★選択肢を設けることで、読みが不確実な平仮名があっても、予測で正答に導けるようにした。

ステップ3 <単語の読み>

* 提示された（家の中から出てきた）単語カードを読む。

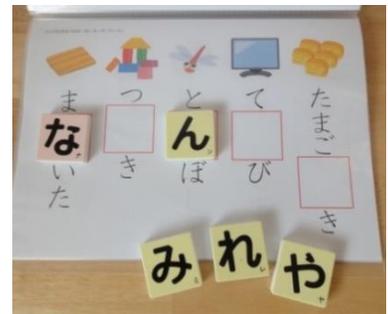
★「コナン君の家に遊びに来たのは誰でしょう？」とクイズ形式で出題したり、窓で正答を確認できるようにしたりすることで、楽しく取り組めるようにした。



ステップ4 <平仮名の想起>

* 単語の虫食いの箇所には、平仮名ブロックを置き、単語を完成させる。

★学習シートは本児にとって分かりやすい内容になるよう自作したが、平仮名ブロックは小学部教材庫にあるものを活用した。



○効果・改善点

- ・題材に本児が好きなキャラクターを取り入れたことで、楽しみながら学習することができた。「今度は、おそまつくんのプリントもやりたいなあ！」など、次の学習に期待を寄せる様子も見られた。
- ・段階的な学習により、成功経験を積みながら学習を進めることができた。ステップ4まである程度できるようになった後は、ステップ1～4までの課題に繰り返し取り組んだが、平仮名の清音については、たどたどしくではあるが、ほぼ読むことができるようになった。
- ・様々な形式の課題を設定することにより、飽きずに取り組むことができた。

【教材・教具名】 物の名称を覚えよう	【教科・領域】 国語	【対象】 小学部1年（S.Hさん）
-----------------------	---------------	----------------------

【ねらい】

- ・絵を見て、その名称を文字カードで構成したり、音声ボードで表現したりする。

○教材の使い方

ステップ1



ステップ1

仲間分け・絵と名詞カードのマッチング

- ・あらかじめ貼ってある絵と同じ仲間の絵カードを貼る。
- ・絵と文字カードのマッチングをする。



ステップ2

絵と名詞カードのマッチング

- ・絵カードを見て、その名称を文字カードで構成する。
(身の回りの物, 色, 動物, 食べ物など)

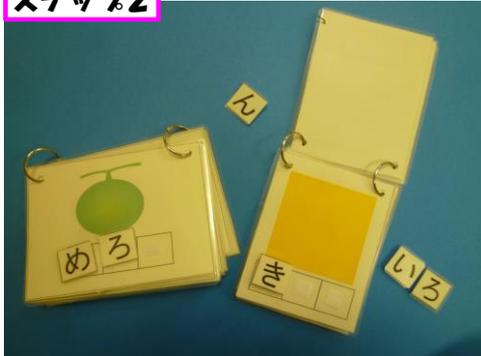


ステップ3

音声ボード

- ・絵カードを見て、その名称を音声ボードで表す。

ステップ2



ステップ3



○工夫点

- ・ステップ1とステップ2はマジックテープを活用し、何度も繰り返し学習できるようにした。
- ・ステップ2とステップ3の絵カードの絵は同様のものとし、①と②を並行して学習することにより、より学習の定着を図れるようにした。

○効果・改善点

- ・絵カードは、日常的に使うことの多いものや本児が興味・関心を示す一音節～三音節程度のものを選んで学習したところ、文字カードで構成したり、音声ボードで表したりすることができるようになった。
- ・ステップ1からステップ3まで段階的に学習することにより、学習の定着が図れただけでなく、飽きずに学習に取り組むことができた。

【教材・教具名】 パネルシアター	【教科・領域】 国語	【対象】 小学部5年生
---------------------	---------------	----------------

- 【ねらい】・読み聞かせに集中して取り組むことができる。
 ・児童が（それぞれの方法で）主体的に読み聞かせへ取り組むことができる。
 ・話の展開を考えながら、パネルに絵を貼ることができる。

○教材の使い方

① となりのたぬき

② 3びきのこぶた

③ ういさなぐも

④ 3びきのこぶた

⑤ 3びきのこぶた

子どもたち自身が出題者として参加。多くの挙手があった。

児童も読み手の手伝いとして、絵をはりながら参加。

児童に、家を組み立てる役として参加させた。

○工夫点 ペープサートを使用したことにより、絵本では動かない登場人物を動かしたり、児童の目の前に持って行ったりすることができ、より注目を引きつけられるようにした。③では児童にも「雲が次にどんな姿に変身するかな」と出題者としての役割を与えた。④では、話の展開に沿って絵を貼る役として児童に行わせた。⑤では児童に、子豚が家を組み立てる場面を実際にやらせるなどして参加させた。

○効果・改善点 「主体的な学習への取り組み」を目指し、一年間読み聞かせ学習の改善をテーマに取り組んできた。ペープサートを動かしたり児童の目の前で見せたりすることにより、言葉が理解できない児童の注目も引き付けることに成功した。話の展開に合わせて絵を貼るなどの進行役を任せさせたことは、自分の番はいつかと良く聞きながら参加することにつながり、内容理解を深めさせることができた。言葉も理解できず、それまで興味をもたなかった児童も、次第に笑顔で絵をはるなどして学習に取り組めるようになった。児童の興味を引き付けるために、オリジナルの絵（アンパンオンやはな〇っぱ等）に変更・追加できることも、この教材の良い点であると思われる。改善点（課題点）としては、オリジナルに沿って同じだけ絵を作ってしまうと、絵のはり替え回数が増えて集中をそいでしまうため、厳選した方が良い。絵が意外と小さくなってしまいがちなので、自分が思っているよりも大きく作ることが大切である。教師の立ち位置にも気を配りたい（パネルのどこを通して絵を貼ったりはがしたりするのか…教師の動線）。

【教材・教具名】 ごん太ゲーム	【教科・領域】 国語	【対象】 小学部5年
--------------------	---------------	---------------

【ねらい】

- ・文字カードを組み合わせて言葉（主に単語）を作る。
- ・文字を組み合わせ、日本語の「単語」または「ことば」作りを楽しむ。

○教材の使い方

- ・2名～8名程度で遊ぶ。ゲームをする感覚で、言葉を作ったり、作った言葉を説明したり、友達からヒントをもらったりして、楽しみながら言語感覚を養う。

カードの種類



図1

図2

・上の段が一般カード。(図1)一文字1枚ずつ。活動するグループによって、相手に見せないように持ったり、手元に並べて、友達からヒントをもらえるようにしたりする。

・下の段が特殊カード。特殊カードは、グループに応じて種類や枚数を限定する。左から「ごん太」は、何でも好きな一文字として使える。2枚あるが、一度場に出た「ごん太」カードは、そのゲームが終わるまでは、初めに決められた一文字のまま使う。

「〰、〇」は、濁点や破裂音のどちらでも使える。「一」は音を伸ばす。「くり返し」カードは、カードの組み合わせの一文字として使う。(例：すも→すもも) その他、「や、ゆ、よ、つ」は拗音としても使う。「を」は文章として使う。

・(図2)手に持って少しずらすと、上の小さな文字が並ぶので、単語を考えやすい。逆にずらすと、上にカタカナが並ぶようになっている。

ルール

・自分の手札を組み合わせて単語を作り、1単語ずつ場に出していき、早く手札をなくせば勝ち。(図3のようなプリントも付け加え、十分に説明します。)

①1人5枚程度渡す。(単語作りが難しいグループは7枚程度あると作りやすい) 残りの札はうら向きに置き、山札とする。

②自分の順番の時に山札から1枚引く。手札の組み合わせで単語ができたなら、はっきりと言いながら場に出す。※分からない単語が出てきたら「ストップ」と言い、単語の意味を説明してもらう。説明を聞いても分からない場合は「ボツ(不採用)」と宣言して、取り下げることができる。

③自分の番のときに、カードを場に出せないときは「パス」と宣言し、次の人に譲る。グループによっては「ヒント」と言って、相手にも単語作りを手伝ってもらう。手札がなくなった順に勝ち抜けとなる。

○工夫点

漢字用ホワイトボードに「部首カード」を貼って漢字のパーツを書きたすことで、違う漢字に変身させる面白さを実感できるようにした。(ホワイトボードの利点は、手軽に間違いを直せること。)

○効果・改善点

・教室を見回して、作れる単語がないか考える様子や、友達に「ヒント」という名の答えをもらい「あったね」と喜び合う様子、「ストップ」をかけられ説明するとき、相手にどう伝えるかと考える様子が見られた。



図3

【教材・教具名】 部首を覚えよう	【教科・領域】 国語	【対象】 中学部1年
---------------------	---------------	---------------

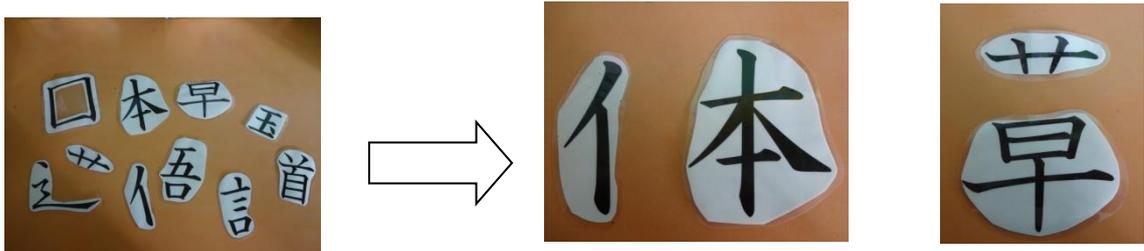
【ねらい】

- ・漢字には様々な部首（へんやつくり、かんむりなど）があることを知り、同じ部首の漢字を覚える。
- ・漢字辞典を使用し、様々な部首の漢字を調べることによって、語彙を広げる。

○教材の使い方

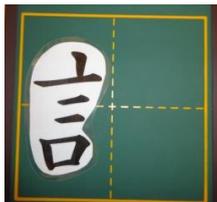
へんやつくり、かんむりなどのカードを組み合わせて漢字を作る。

- ・漢字は、パーツの組み合わせでできていることを理解する。
- ・徐々にかまえやあしなど、パーツのカードを増やしていく。

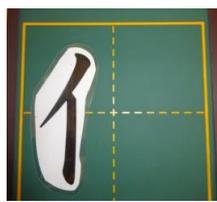


いろいろな部首を知り、覚える。

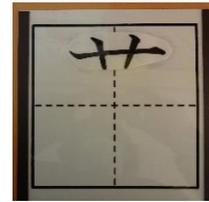
ごんべん



にんべん



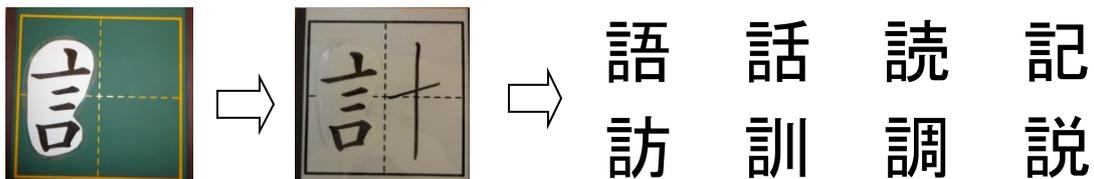
くさかんむり



同じ部首の漢字を分かっているだけ書く。漢字辞典を使用し、同じ部首の漢字をたくさん学習する。

- ・漢字用ホワイトボードに部首カードを貼り、部首の位置を替えずに、知っている漢字や漢字辞典で調べた漢字を書き込んでいく。（※記入しながら、漢字の意味や使い方も学習するように促す。）

例：ごんべん



○工夫点

漢字用ホワイトボードに「部首カード」を貼って漢字のパーツを書きたすことで、違う漢字に変身させる面白さを実感できるようにした。（ホワイトボードの利点は、手軽に間違いを直せること。）

○効果・改善点

- ・同じ部首の漢字をたくさん知ることによって、漢字の理解が深まった。また、漢字辞典でいろいろな部首や漢字を調べる面白さが分かり、集中して調べ学習ができた。
- ・漢字の使い方（意味）を習熟させ、作文でも使える漢字を増やしていきたい。

【教材・教具名】 「見たり聞いたりしたことを伝えよう」学習プリント	【教科・領域】 国語（高等部）	【対象】 高等部国語2班
---------------------------------------------	---------------------------	------------------------

【ねらい】
・見聞きしたことや経験したことなどを文章で表すことができる。

○教材の使い方

- (1) 学習プリントのステップ1にある項目①～⑥について、メモさせる。
- (2) 学習プリントのステップ2では、メモしたことを①から⑥まで順番につなげて文章を作らせる。

修学旅行で

見たり聞いたりしたことを伝えよう

名前 ()

ステップ1 項目ごとにメモしてみよう

① だれが (は)	
② いつ	
③ どこで	
④ どうしたか	
⑤ どうなったか	
⑥ どう思ったか (感想)	

ステップ2 ①～⑥の項目をつなげて文章にしよう

ステップ 1

- ① だれが (は)
- ② いつ
- ③ そこで
- ④ どうしたか
- ⑤ どうなったか
- ⑥ どう思ったか
(感想)

① から⑥までの
メモをつなげると
文章ができる。

○工夫点

- ・項目ごとにメモをするだけで、要点をとらえた文章を作りやすくすることができる。
- ・タイトルの「〇〇で見たり聞いたりしたことを伝えよう」の「〇〇で」の部分を変えることで、様々な内容についての文章で表現することができる。 例)・夏休み中に など

○効果・改善点

- ・いざ、書いてみようとするとなかなか文章にまとめることができない生徒が、この学習プリントを使うと、まとまりのある文章を短時間で書き終えることができるようになった。
- ・項目ごとにメモすることができる生徒が前提の学習プリントなので、メモできない生徒にとっては、有効ではない。